

こども盆栽がこどものまちプロデューサー養成講座を実施する背景

近年、子どもたちと接する地域の大人が減っており、また、地域の大人と子どもたちが接する機会も減っています。そのため、地域の教育力低下が問題となっており、地域で様々な教育の機会を提供することが求められています。

子どもたちの方も、遊びの貧困化のために人とのコミュニケーションに必要な能力が低下していたり、手本となる身近な大人がいないことによって将来に希望が持てなかったりしています。

こういった問題を背景として、こども盆栽は子どもたちに、遊びを通して自分で自分の生き方を考えて生きていくきっかけを提供するイベントとして、ミニ大阪を開催しています。

ミニ大阪では地域の大人がスタッフとなり、子どもたちが自分たちのまちをつくるサポートをします。子どもたちはその中で様々な葛藤を体験し、友達やスタッフと対立したり対話したりしながらまちをより良く（けれどもなるべく自分に有利なように）変えていく経験をします。

この経験によって、今の学校教育の役割が増大し、地域の大人たちによる教育が行き届いていない中では網羅できていない、他者との軋轢の中でいかに行動するかということを知識としてではなく、実体験に基づいて体得することができます。さらに親とは違う身近にいる大人が何を考えて生きているのかを知る機会となります。ミニ大阪に参加した子どもたちは、普段の学校生活でも、自主的にクラスの催しを企画するなど、自ら考え行動する力が高まっています。

これからの社会を生きていく子どもたちにはこういった力が必要です。しかしながら、ミニ大阪は1年に一度、こども盆栽がコンサルタントに入っているものを合わせても年に数回しか開催できず、参加できる子どもの数は限られています。

そこで、こども盆栽では、こどものまちプロデューサー養成講座を開講し、こどものまちをもっとたくさんのおまちで、もっとたくさんのお子どもたちに提供するプロデューサーを養成することにしました。

この講座は、こどものまちの基本的な運営方法から、実際のお子どもとの関わりに至るまで、こどものまちを実施するためのスキルがきちんと身につくカリキュラム構成になっており、地域をより良くしたいと考えている方に提供していきたいプログラムです。

また、講座の修了生が実施するこどものまちでは、統一の指標によるこどものまちの評価を行い、その地域で求められている地域の実態に合わせたこどものまちが実施できるような仕組みをつくります。このデータを集めるためにも、こども盆栽が主催するだけではなく、こども盆栽がこどものまちプロデューサーを輩出することが必要であると考え、こどものまちプロデューサー養成講座を開講する次第です。